

2021年度の消化器内科の常勤医師は2名、非常勤医師は1名。消化器内科外来は週4日であり、肝臓専門外来を熊本大学病院から派遣の非常勤医師が週1日担当した。

内視鏡検査実績 (件)

	2021年度	2020年度
上部消化管（処置、検診を含む）	1,816	1,441
下部消化管（処置を含む）	580	570
ERCP（処置を含む）	4	8
超音波内視鏡	0	0

内視鏡治療実績 (件)

	2021年度	2020年度
食道ESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)	0	0
胃ポリペクトミー(EMRを含む)	4	3
大腸ポリペクトミー(EMRを含む)	111	91
胃ESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)	3	5
大腸ESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)	1	1
食道胃静脈瘤治療(EVL,EIS,APC)	0	1
内視鏡的止血術(上部)	11	12
内視鏡的止血術(下部)	0	1
異物除去	3	4
食道狭窄拡張術(ステント、バルーン)	1	3
PEG造設	1	6
PEG交換	6	15
内視鏡的胆道ステント留置術	2	2
内視鏡的乳頭切開術	0	5
内視鏡的採石術	1	1

内視鏡検査件数は新型コロナウイルス感染の影響にも関わらず、前年度と比較してERCP以外は増加した。内視鏡治療件数は前年度と比較して著変なかったが、PEG造設、PEG交換の件数は著明に減少した。

主な消化器疾患入院症例数（主病名のみで重複なし）（例）

	2021年度	2020年度
逆流性食道炎	0	1
腐食性食道炎	0	2
マロリー・ワイス症候群	0	0
食道・胃静脈瘤	0	2
食道異物・咽頭異物	0	2
早期食道癌	4	0
進行食道癌(術後を含む)	0	1
術後食道胃吻合部狭窄	0	1
胃毛細血管拡張症	2	1
胃ポリープ	4	4
早期胃癌(外科転科症例を含む)	4	4
進行胃癌(外科転科症例を含む)	5	7
幽門狭窄症	0	1
十二指腸狭窄症	0	0
ダンピング症候群	0	0
十二指腸乳頭部癌	0	0
(出血性)胃十二指腸潰瘍	8	7
急性胃腸炎	2	4
急性胃拡張	0	1

大腸ポリープ	35	45
空腸消化管間質腫瘍	0	1
回腸炎	0	2
大腸癌(腺腫内癌、外科転科症例を含む)	5	9
大腸憩室出血	3	7
感染性腸炎(出血性腸炎を含む)	2	2
イレウス(サビレウスを含む)	6	4
虚血性大腸炎	11	20
潰瘍性大腸炎	0	1
大腸憩室炎	0	0
偽膜性腸炎	0	0
上腸間膜動脈症候群	0	0
S状結腸軸捻転	0	2
S状結腸穿孔	0	1
直腸カルチノイド	0	0
直腸神経内分泌腫瘍	1	1
消化管出血(出血源不明)	9	5
急性虫垂炎	0	0
癌性腹膜炎	0	0
腸間膜脂肪組織炎	0	1
薬剤性下痢症	0	1
肝障害	2	4
急性肝炎	1	1
自己免疫性肝炎	0	0
転移性肝腫瘍	0	2
肝硬変(肝不全を含む)、腹水	3	2
肝性脳症	2	1
肝細胞癌	5	3
胆管細胞癌	0	1
肝膿瘍	1	3
胆石胆嚢炎(外科転科症例を含む)	1	11
総胆管結石性胆管炎	4	2
胆石性膵炎	1	1
胆石疝痛	0	0
胆嚢癌	0	1
胆嚢摘出術後	0	1
急性胆管炎	4	0
胆管癌	4	1
急性膵炎(慢性膵炎急性増悪を含む)	2	4
膵臓癌	2	3
食欲不振、栄養障害	3	2
高度貧血(大球性貧血を含む)	8	7
急性アルコール中毒	0	2
その他(新型コロナウイルス感染124例を含む)	298	286

入院症例の高齢化に伴い、何らかの合併症を有する症例が多かった。原疾患は治癒しても、合併症のために入院期間が長くなるケースが多かった。手術や化学療法可能な症例が減少し、緩和ケアを行う症例が増加した。新型コロナウイルス感染増加の影響を受け、全体的に症例数が減少を認めた。しかし、消化管疾患においては、早期食道癌、胃毛細血管拡張症、出血性胃十二指腸潰瘍、イレウス、消化管出血などの症例が増加した。肝胆膵疾患においては、肝硬変、肝性脳症、肝細胞癌、総胆管結石性胆管炎、胆管癌などの症例が増加した。